

平成 23 年 8 月 15 日

宇宙線研究者会議（CRC）からの推薦経緯と要望

宇宙線研究者会議(CRC)では、これまでも定期的に将来計画の検討を続けてきましたが、H22 年には大型計画として重力波（LCGT）計画が認められ、宇宙線研究は新たな将来計画構想のフェーズに入った段階となりました。学会会議並びに関係者の皆様の御支援には大変感謝いたします。昨年 9 月 16、17 日には将来計画検討シンポジウム（東大柏キャンパス）を開催し、会議録として「宇宙線分野の現状と将来」(添付資料参照)を公開しています。

今回の中規模将来計画の推薦依頼に呼応して、CRC 実行委員会はコミュニティ内外 8 名の委員による将来計画検討小委員会を設置（下記）7 月 8 日締切りで該当計画に関するアンケート調査を新規に行い 8 件がリストアップされました。これらは既にも上記シンポジウムでも議論されてきた計画です。7 月 30 日には「CRC 中規模将来計画タウンミーティング（東大柏キャンパス、約 60 名参加）」を開催し、8 件の計画代表者によるプレゼンと質疑応答、および今回の推薦に関する意見交換を行いました。これを踏まえ、8 件の計画はどれも科学的に重要で CRC として推進すべき計画であること、また目的が多分野にまたがり予算規模もまちまちである事などから、短期間の議論で順位付けをする事は困難であり適切でないと判断し、今回は各計画について将来計画検討委からのコメントを付したうえで 8 件全てを推薦することになりました。8 月 30 日のヒアリング開催に当たっては、予算規模が妥当で、（国際協力・国際競争の）緊急性が高く、十分な準備状況にあると判断される計画からヒアリング対象とするのが適当と考えます。ただし上記のコメントはあくまで CRC 将来計画検討小委員会の答申に基づいた CRC 実行委員会の「現時点での」の判断とお考え下さい。

宇宙線分野は中小規模の計画にも先鋭的で重要な研究テーマを持った計画が多く、また素粒子から宇宙・天体物理、さらには地球物理にまで広がる多様な側面を持つ分野です。中規模計画の推進に関する宇宙線分野の特徴について御理解を得たく、以下の要望を申し上げます。

1. 多分野にまたがる計画の支援の枠組み

宇宙線研究は多様な分野を内包した学問である。例えばカムランド実験のように太陽ニュートリノ（宇宙物理）、ニュートリノ振動・二重ベータ崩壊（素粒子原子核物理）、ジオニュートリノ（地球物理）と学会会議の複数の分科会にまたがって重要な課題に取り組める計画もある。学際的性格を最大限に生かせるような支援の枠組みの検討が必要である。

2. 大型科研費の拡大による「科研費超」中規模計画の速やかな実現の道

今回の 8 計画の中には 10 億以下の予算で十分に重要な成果が期待できる計画もあり、

科研費の枠組みでカバーされる方がむしろ適切と考えられる。科研費の上限額にさらなる柔軟性を持たせる事、「研究者個人の自由な発想」の枠を超え、ある程度大きい研究者グループでの科研費またはそれに類する競争的資金への応募と研究の遂行、また予算執行の自由度も拡大し、研究のための施設整備（建築、掘削等）への使用、完全新規計画以外にも既存計画の拡充や維持も大型科研費でカバーできるような枠組みの改革が必要であろう。

3. 迅速かつ機動的な計画の見直しを可能にする枠組み

中規模計画は特定の研究対象・研究手法に特化した計画が多く、それゆえに科学の進展にすばやく対応しその内容や優先度を迅速に見直しに行ける事が大きなメリットである。このメリットを阻害しないように、学術会議の判断を長期に固定せず早いサイクルで見直す枠組みが必要である。

上記に加え、科学行政の場にサイエンティストがもっと積極的に参加し、計画の吟味や予算配分まで、研究者と行政の橋渡しの役割に責任を持って関わられるような体制の構築を図っていくべき、との意見もあった事を付け加えておきます。

記

CRC実行委員会のもとに設けられた将来計画検討小委員会委員名簿

井岡邦仁（高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所）

伊藤好孝（名古屋大学太陽地球環境研究所、委員長）

井上邦雄（東北大学ニュートリノ科学研究センター）

梶田隆章（東京大学宇宙線研究所）

河合誠之（東京工業大学理工学研究科）

神田展行（大阪市立大学理学研究科）

寺澤敏夫（東京大学宇宙線研究所）

森 正樹（立命館大学理工学部）

CRC実行委員会名簿

伊藤好孝（名古屋大学太陽地球環境研究所、委員長）

戎崎俊一（理化学研究所）

荻尾彰一（大阪市立大学理学研究科）

神田展行（大阪市立大学理学研究科）

窪秀利（京都大学理学研究科）

瀧田正人 (東京大学宇宙線研究所)

手嶋政廣 (東京大学宇宙線研究所)

戸谷友則 (京都大学理学研究科)

西嶋恭司 (東海大学理学部)

福島正己 (東京大学宇宙線研究所)

宗像一起 (信州大学理学研究科)

森 正樹 (立命館大学理工学部)

吉田 滋 (千葉大学理学研究科)